

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200169		
法人名	株式会社 アトラス		
事業所名	グループホーム たんぽぽ		
所在地	千葉県千葉市花見川区朝日が丘3丁目2-61		
自己評価作成日	平成25年3月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは昨年3月に閑静な住宅街にオープン、朝日ヶ丘つくし自治会に入会し地域との連携を図っている。ホームの特色としては浴室は窓を大きく取り外の景色が一望でき、歩行に不安がある方にも安心して入浴を楽しんでいただけるようリフト浴を設置している。食事に於いては旬の食材を購入し、米は産地直送の物を使用し入居者様と職員が共同で盛り付けを楽しんでいる。残された力が発揮できる機会を作り、継続していける支援に努めている。施設入所が必要になった場合、系列施設と連携しニーズに合わせた柔軟な相談、支援ができる体制を作っている。訪問診療等医療機関との連携による健康管理を行い重度化しないよう連携を図っている。職員は認知症介護に思いやりを持って日々楽しく入居者様と生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム たんぽぽ」は閑静な住宅街の中にあり、近隣の住民に溶け込みながら、地域密着型施設として、地域に根差した施設運営に取り組んでいる。3階建ての施設は、1階がデイサービス、2・3階がグループホームとなっている。施設内や法人内の連携を活かし、入居者・家族の希望・ニーズに合わせた柔軟な支援が可能となっており、安心した生活へ繋がっている。家庭的で温かみある雰囲気の中、自由にゆったりとくつろげる環境作りを努めている。その他にも、法人内の施設や他のグループホームとの交流が行われており、外部とのコミュニケーションが入居者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同いつも目に付く場所に「基本理念」を掲示している。職員会議等の際、「基本理念」掲げたことが実践されているか確認しサービスの向上に心がけている。	「笑顔」「安心」「交流」を基本理念として掲げている。理念においては、パンフレットや規定に明文化していると共に、施設内に掲示し、職員や来訪へ周知している。研修の実施や理念及び方針の配布を通じて全職員が理解を深めた上で、理念に基づくサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行われる、草取り、掃除等に参加したり、夏祭りには入居者全員が参加し地域との交流を図っている。	町内会に加入し、近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれている。夏祭り等の地域行事に参加していると共に、法人の運営する施設での行事参加を通じて、地域住民との交流を図っている。その他にも、地域のグループホームとの交流があり、様々な人との触れ合いが入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、運営推進会議等で地域の方々にグループホーム、認知症の人の理解をしていただけるよう取り組む。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはあんしんケアセンター、民生委員、近隣のケアマネ、家族の参加を予定しホームの現状報告、意見交換を予定している。(3/16実施予定)	地域包括支援センター職員・町内会長・自治会長・民生委員・家族等を構成員として、平成25年3月に第一回目の運営推進会議を開催した。会議では、施設の活動報告や施設紹介を行い、施設の理解促進に繋げている。	今後も継続して定期的に運営推進会議を開催する事により、地域との関わりを深め、さらに施設の理解促進に努めて頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協会を通じ市町村との連携を図っている。千葉市高齢施設課主催の研修は積極的に参加している。	日頃から業務における相談や報告等を行い、市との連携を図っている。また、グループホーム連絡会に加入し、連絡会にて市との意見・情報交換を行っており、連携を図っている。他にも、市主催の研修会等に参加し、サービスの質の向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習を受け、受講した者がホーム内研修をし皆と身体拘束をしないためにはどうしたらよいか話し合う。	身体拘束排除における研修の実施・マニュアルの整備を通じて、全職員が意義を理解している。身体拘束は原則行わず、やむを得ず行う場合は、医師の指示の下、経過を見ながら検討し、適切な支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待について、職員間で話題にしている。管理者から見て虐待に繋がらないよう注意喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は大体のことは理解している。現在入居者では活用している方はいないが、ケアマネが必要に応じ家族、関係者と話し合う事になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族（キーパーソン）と直接面接し説明し、疑問等には納得が行く説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族等が意見、要望が言い易いようにしている。苦情窓口を設置している。	家族の面会時や電話連絡時に直接意見・要望等を確認していると共に、運営推進会議を通じて、家族以外にも地域や市等、外部からの意見も確認している。挙げた意見・要望等においては、全職員へ周知の上、適切な改善に努めている。定期的に施設の新聞を発行し、詳細に報告する事で、家族に施設の活動を理解してもらい、意見が言いやすい環境作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を設け意見を聞く場を設けている。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認している。また、管理者が個別に相談に乗る等、個々の思いや意見の把握に努めている。休暇等、職員の希望に応じて調整しており、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を取り入れ、働き易い環境に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定を立て内部研修を行う。外部研修の参加を積極的に行っている。研修内容の共有と資格取得の推進をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム協会に加入し、協会が主催する研修に参加して交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が入居者情報を閲覧し、本人が安心できるように話題づくりやチームで関り信頼関係づくりに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に十分話を聞く。(家族の不安、要望)入居後もいつでも相談ができるよう家族の思いに寄り添うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人グループで老人保健施設等があることを説明し、多様な選択肢があることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の個々の今の状況、思いを汲み取り今何をすべきか、何を支え安心して生活できるかを考えながら、共に生活する者として関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私達は家族の代わりにはなれても、本当の家族にはなれない事をご家族に話しご本人の真なる思いを伝え、ホームで本人が暮らすことで良い距離感を生み良い関係作ができるよう、イベント等来訪の機会をつくり、色々な相談を家族といっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊・電話や手紙等いつでもできるように対応している。家族の了解の下知人や古い友人と出かけられるよう支援している。	友人・知人・家族との外出や手紙のやり取りは可能な限り支援しており、馴染みの関係継続を支援している。また、希望に応じて墓参りや行きつけの商店等、馴染みの場への外出も支援している。その他にも併設のデイサービスや他のグループホームと交流の機会を設け、新たな馴染みの関係構築を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	共同で行う家事(食事の盛り付け、洗濯物た たみ等)職員が声かけし共にできるよう支援 している。入居者間で症状について中傷的 な発言が聞かれた場合、説明し理解してそ の人を支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅復帰された方がホームに遊びに来られ ている。退居後ご家族からの相談にもものっ ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	1ユニットでは入居者一人一人に担当職員を つけ月に1回ユニット会議内でカンファレンス を行っている。もう一つのユニットでは担当は まだつけていないが都度話し合って解決して いる。困難な場合であっても本人の立場にな り検討している。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状 況等を確認していると共に、必要に応じて医療 機関や他サービスからの情報提供を受け、より 詳細な情報の把握に努めている。日々の生活 における気付きや情報等は、申し送りノートを活 用し、常に職員が新しい情報を共有できるよう 工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人から聞いたり、聞き取りが難しい場合は 家族から情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、介護記録、健康チェック表 等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	サービス担当者会議、カンファレンスを行い ケアプランへ反映させている。状況に応じ変 更している。	家族の意向を確認していると共に、入居者に担 当職員を決めており、担当職員を中心にニーズ を検討しながら介護計画を作成している。定期 的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必 要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録・健康チェック表に日々記録し 職員間で共有している。職員から上がった気 づき変化により計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人グループで協力体制があるため柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花の美術館や近隣を散歩しながら季節のお花を見たり、ベランダにプランターを置きお花を育てたりしている。今後入居者の希望に合わせてプランター菜園をする予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診の継続、協力病院の訪問診療と本人・家族と話し合い自由に選択していただいている。緊急時には家族の承諾のもと協力病院に受診できるようにしている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、希望に応じて受診の付き添いも支援していると共に、定期的に内科医の往診を実施しており、適切な医療支援を提供している。必要に応じて併設デイサービスの看護師に相談をし、連携を図っており、適切な健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは、看護師の配置がないため協力病院、かかりつけ医の医師、看護師、との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後も安心して過ごせるよう、主治医・看護師と話し合い家族とも連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期まで見て欲しいとの家族の要望が多い、ホームでできる事、出来ない事を十分説明し、家族の納得を得て主治医と連携し対応している。現在1名終末期を迎えている方がいる。	重度化・終末期における施設方針を家族に説明していると共に、家族の意向を確認している。重度化した場合には、医師・家族と相談しながら施設として出来る限りの支援を行っている。また、要望に応じて、医療機関や他施設に移行する場合には、スムーズに行えるよう他機関との協力体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが作成されており、職員会議でも確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報システムを設置しており、災害マニュアルを作成している。ホーム内では防災訓練をおこなっている。	消防署の立会いを含めた避難訓練を年2回実施していると共に、火災報知機・自動通報器・スプリンクラー等の消防機器を設置しており、火災対策を講じている。また、夜間を想定した訓練の実施・非常階段の設置等、様々な災害時への対策がなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに注意を払っている。人格を損なう声かけがあれば職員に対し注意している。個室であるため訪室時には許可を得て訪室している。また排泄時には特に注意を払っている。	プライバシー保護におけるマニュアルの配布・研修の実施を通じて、職員が意義を理解している。希望に応じて、同姓介助を行い、入居者のプライバシーに配慮している。また、記録は適切に保管し、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と職員が話す機会を多く持ち、何をしたいのか、どうしたいのかを話せるまた自己決定、選択がしやすい状況をつくるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて支援している。集団行動をする場面であっても強制せず状況に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時にはお化粧をし正装して参加されている方が数名、その他の方は本人と相談しながらコーディネートし参加していただいている。日々においてもその方らしい身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを聞き、嫌いなものに対しては代替りの物を提供し食事を楽しめるようにしている。入居者の希望にそった食事の提供ができるようにしている。職員と共に食事の盛り付け、食器拭き等の手伝いができる方にはできるよう支援している。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで休堂で行っている。入居者の嗜好に応じて、代替えの提供をする等、個々に合わせた食事の提供を行っている。また、定期的に外食会の実施・特別食の提供を通じて、様々な食の楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分量をチェックし記録している。摂取量が少ない場合は工夫している。また嚥下状態により、食事形態を変える工夫をしている。(刻み、ミキサー、トロミ使用)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの促し、介助をし清潔保持に努めている。就寝時には義歯をポリドントにつけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いパターン、シグナル把握に努めている。	排泄チェックリストを活用しながら、個々のパターンを把握しており、声掛け・トイレ誘導を行いながら排泄の自立に向けた支援がなされている。夜間においては、ポータブルトイレの活用やトイレ誘導を行い、適切な排泄支援を行っている。必要に応じて、併設デイサービスの看護師に相談し、適切な排泄コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし一日1000cc以上を目標にしている。不足がちな方には好みの飲みものを細目に提供し水分摂取に取り組んでいる。できるだけ体を動かす機会をつくっている。往診時に主治医に相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日はあるがその方の状況に応じ柔軟に入浴できるようにしている。	入居者の希望に応じて、時間や回数等を柔軟に調整し、適切な入浴機会を設けていると共に、必要に応じて、部分浴・シャワー浴・清拭を行っており、入居者の清潔保持に努めている。リフト浴槽や機械浴槽の利用も可能となっており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により居室で過ごされたり、リビングで過ごされたりしている。本人の意向、状況に応じ休息の時間を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に体調を報告し定期薬、臨時薬の処方を受け管理している。個々の薬情をファイルし職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな歌手のDVDを鑑賞し楽しんでいる方もいる。意向を聞きその方にあった支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ散歩に出掛けたり、買い物、美容院に行きたいとの希望があれば付き添い出掛けしている。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っていると共に、ウッドデッキを活用し、気軽に外の空気に触れられるよう配慮している。定期的に外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。その他にもユニット間・併設デイサービス・法人内の施設・地域のグループホーム等との交流の場が多々あり、外部とのコミュニケーションが入居者の刺激となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと落ち着かない方に関しては家族と十分話し合い少額を所持し買い物の際支払っている方もいる。(職員付き添いの下)その他の方は管理ができない為、支払の際現金を渡し支払ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時はホーム事務所にてかけてもらう。手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう入居者とつくった作品などで装飾している。歳時に合わせた飾りをして時季を感じられるよう支援している。トイレがわかるよう表示している。	共有スペースには、ソファやテーブルを設置し、入居者が自由にくつろげる環境作りがなされている。ウッドデッキへの出入りは自由となっており、気軽に外の空気を楽しめる空間となっている。また、併設デイサービスには、フットスパ・マッサージ器・カラオケルームがあり、入居者の生活の活性化の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて自由に過ごせるようにしている。ベランダに出られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んでもらうようにしている。寝具は以前の様式を取り入れるようにしている。(畳で布団を使用していたならユニット畳を敷き布団で眠れるようにしている。)	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、畳や布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。居室内は、収納・鍵・エアコン・呼び出しボタン等が設置されており、入居者の安全面・利便性に配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、廊下の幅は車いすが2台が並んでも十分な広さを取っている。手すりも設置している為、伝って歩くことができる。		